

日時:令和6年8月8日(木)13:30~16:30  
兵庫県地域日本語教育シンポジウム2024 (Zoomオンライン)

## 行政と共に創る地域日本語教育を通じた多文化共生のまちづくり —「総社モデル」の構築と展開—



岡山大学 学術研究院社会文化科学学域 准教授  
総社市 日本語教育事業運営委員 兼 コーディネーター

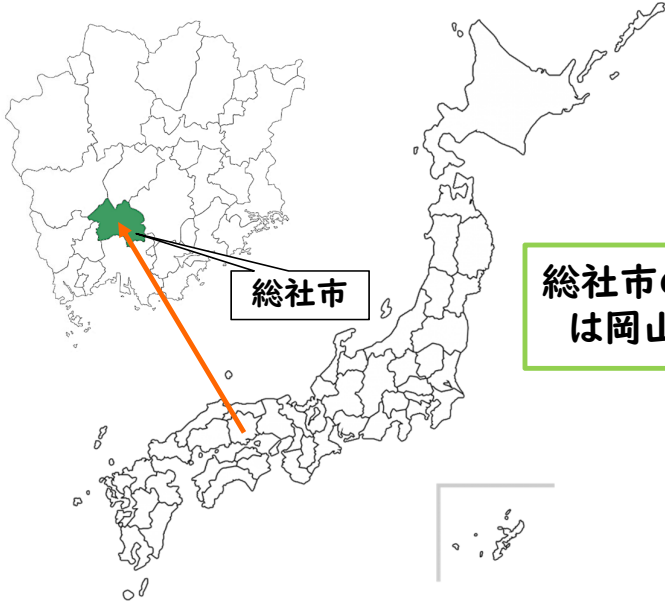
中東 靖恵 (なかとう・やすえ)

### 地域日本語教育との関わり:文化庁事業との中で

- 2010年 文化庁委託「生活者としての外国人」のための日本語教育事業として、**行政** (H22) **を事業主体**とする総社市日本語教室の立ち上げ。  
総社市日本語教育事業運営委員就任。
- 2012年 **総社市日本語教育事業運営委員兼コーディネーター就任**。「総社モデル」構築。  
(H24) 2018年度まで文化庁委託事業。  
2019年度以後は総社市の独自財政により事業継続(現在も継続中)。
- 2016年 文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業「**地域日本語教育スタートアッププログラム**」**地域日本語教育アドバイザー** 就任(佐賀県鳥栖市・神崎市、香川県宇多津町・小豆島町、滋賀県高島市、和歌山県橋本市)
- 2023年 文化庁「**地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業**」  
(R5) 岡山市地域日本語教育推進のための総合的調整会議 委員長  
鳥取県における地域日本語教育体制整備事業総合調整会議 副座長
- ※2024年4月~文化庁国語課から文部科学省総合教育政策局(日本語教育課)へ移管

# 1. 総社市における多文化共生施策の概要

- 総人口: 69,580人 (2024年4月現在)
- 在留外国人数: 1,847人 (総人口比2.65%)



総社市

総社市の外国人人口は岡山県内第3位

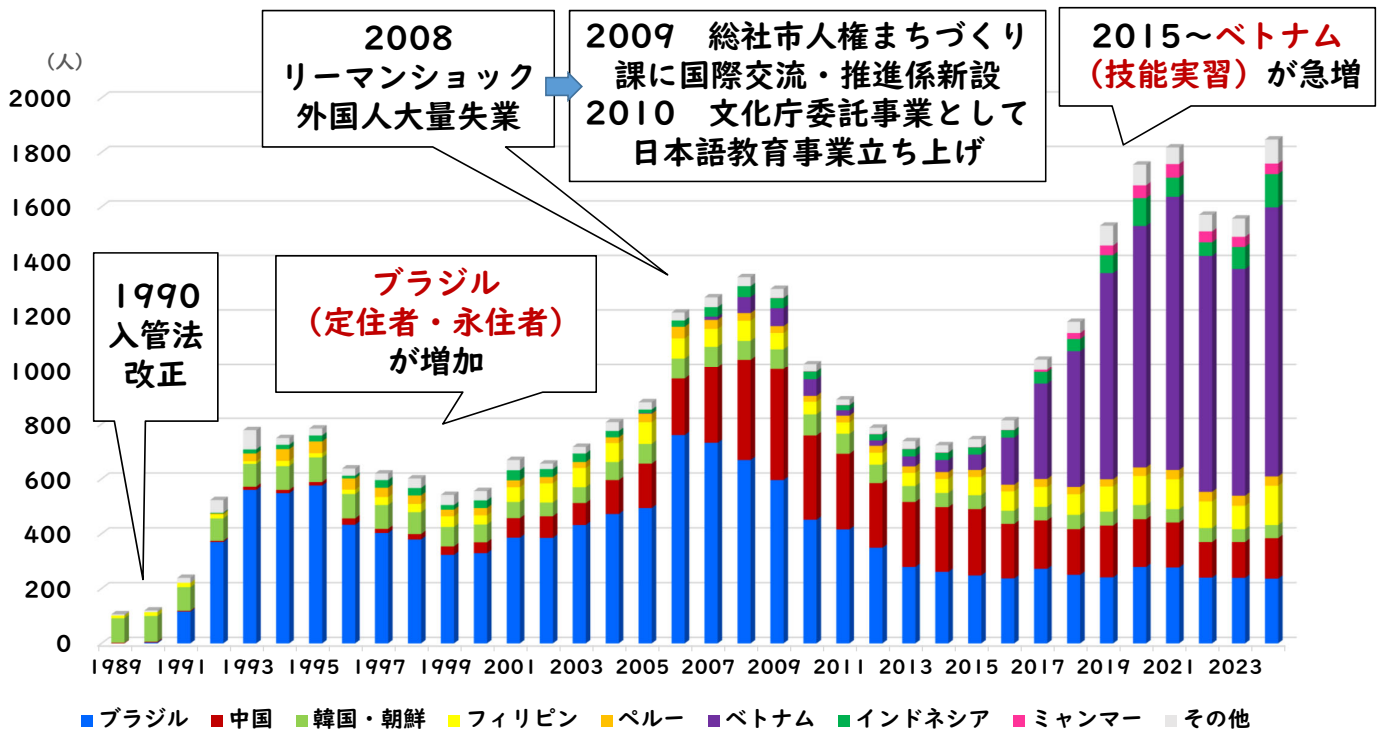


備中国分寺五重塔

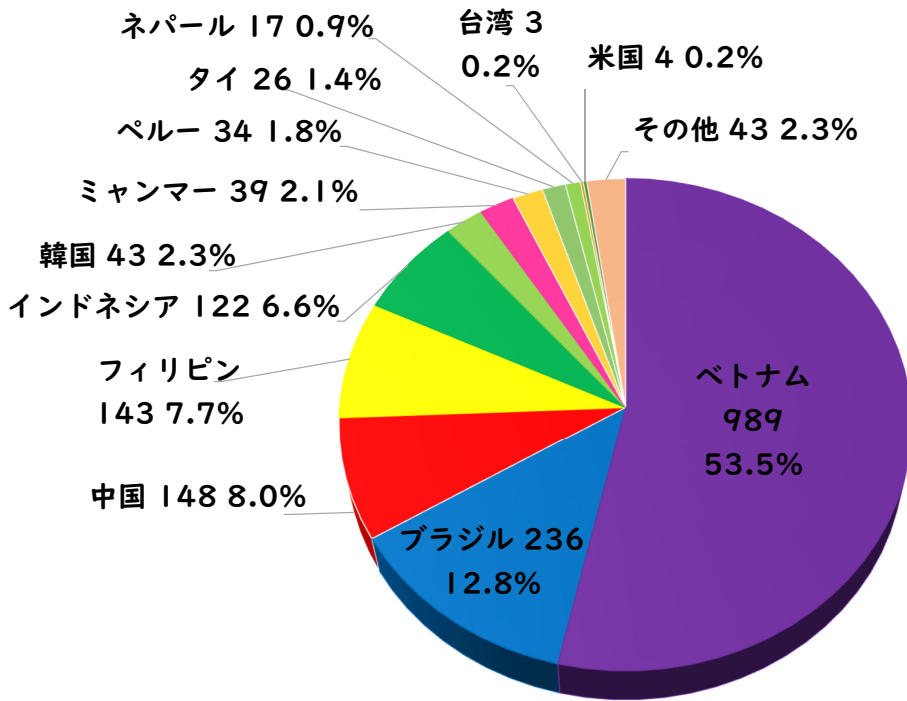


市南部の工場地帯

## 総社市の外国人人口の推移



## 総社市の国籍・地域別 在留外国人割合 (2024.4)



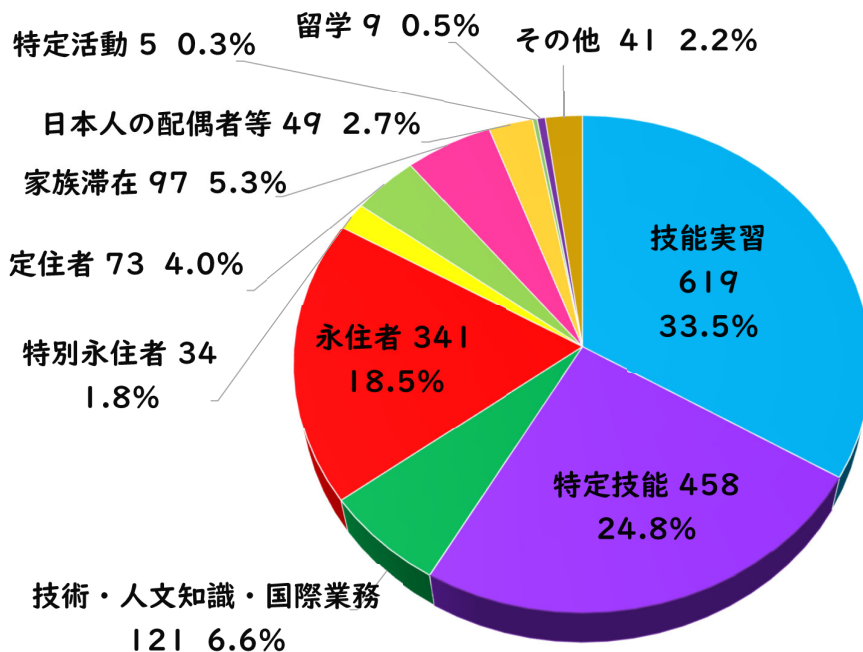
ベトナム・ブラジル・  
中国で75%

アジアからが大半



多国籍化  
32の国・地域

## 総社市の在留資格別 在留外国人人数・割合 (2024.4)



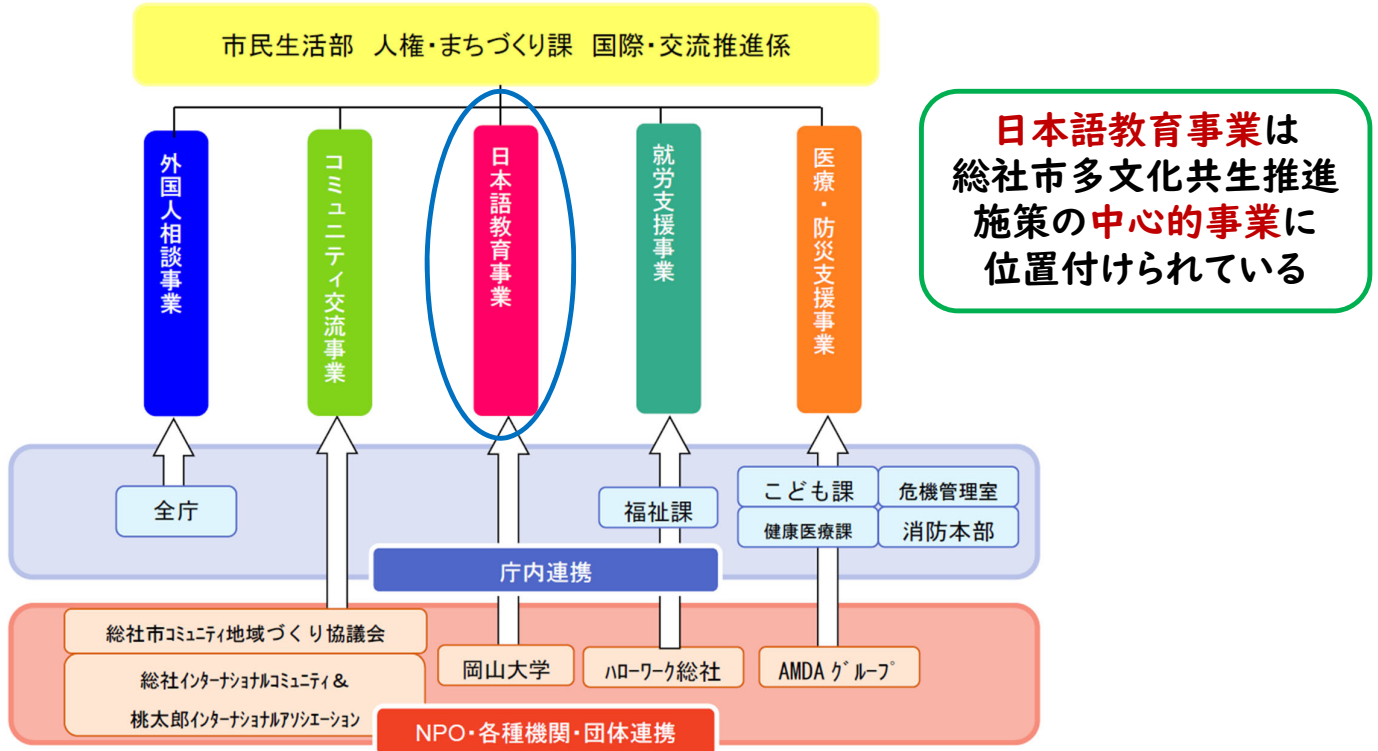
技能実習・特定技能・  
技人国で65%

永住者を加えて8割

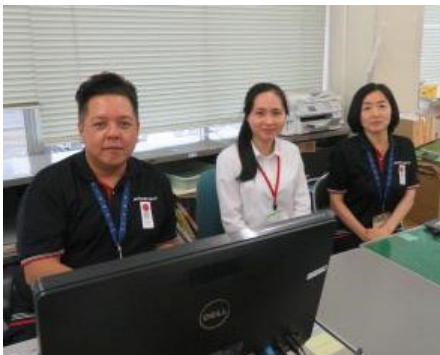


就労者が大半  
留学生はわずか  
中・長期滞在化

# 総社市における多文化共生事業の推進体制



## ■ 多文化共生推進員 (3名)・外国人相談窓口 (通訳) の設置

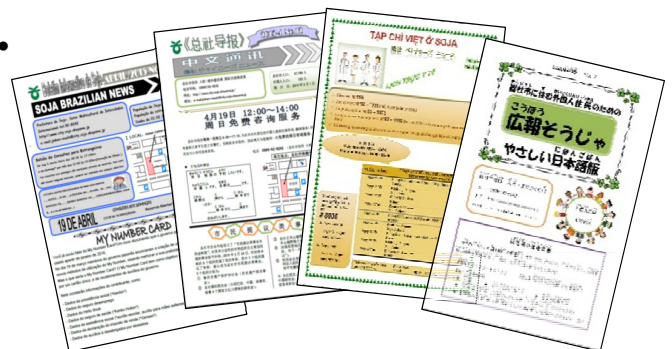


ポルトガル語・スペイン語・英語 (2009:H21~)  
中国語 (2014:H26~) ・ ベトナム語 (2019:R1~)

**外国人住民の声を直接聞き、多文化共生施策に反映**  
R5相談件数3,640件 (内、行政手続が2,158件)

## ■ 広報紙の多言語化・外国人世帯への配布・市HPやFacebook等での配信

ポルトガル語・中国語・ベトナム語・やさしい日本語版



**外国人住民への情報提供・情報格差の解消**

## ■ コミュニティ交流事業

地域住民同士のコミュニティを通じた交流



## ■ 外国人防災リーダー養成

「支援される」側から「支援する」側へ



外国人住民が自立し、積極的に社会参画できる「多文化共生のまちづくり」を実現するための体制整備



多文化共生のまちづくりの「要」であり「懸け橋」としての日本語教育事業

## 2. 総社市における日本語教育事業の概要・運営連携体制

- 2010～2018 (H22～H30) 文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業を受託し(9年間)、日本語教室立ち上げ
- ・2012～2014 文化庁地域日本語教育実践プログラム(A)
  - ・2015～2018 文化庁地域日本語教育実践プログラム(B)
- 2019(R1)～ 総社市の財源による事業運営に切り替え
- 2020～2021 (R2～R3) 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン教室開催
- 2022(R4)～ 対面での日本語教室再開
- 2023(R5)～ 地元高等学校(総社南高校)との連携開始

行政を事業主体とする多文化共生のまちづくりとしての地域日本語教育「総社モデル」の構築(2010～)

# 総社市地域参加型生活サポート日本語教育事業の取り組み

文化庁地域日本語教育実践プログラム(B)で実施

文化庁地域日本語教育  
実践プログラム(A)で実施

## I 日本語教室の設置・運営

### 1. 地域でつながる日本語教室

## II 日本語教育を行う人材の育成・研修

### 2. 地域に根ざした日本語学習サポーター育成研修

## III 日本語教育のための学習教材の作成

### 3. 地域密着型日本語学習教材作成

## IV 地域の各種団体・機関との連携協力

### 4. 地域コミュニティ連携防災訓練事業

### 5. 地域ではぐくむ子育て応援事業

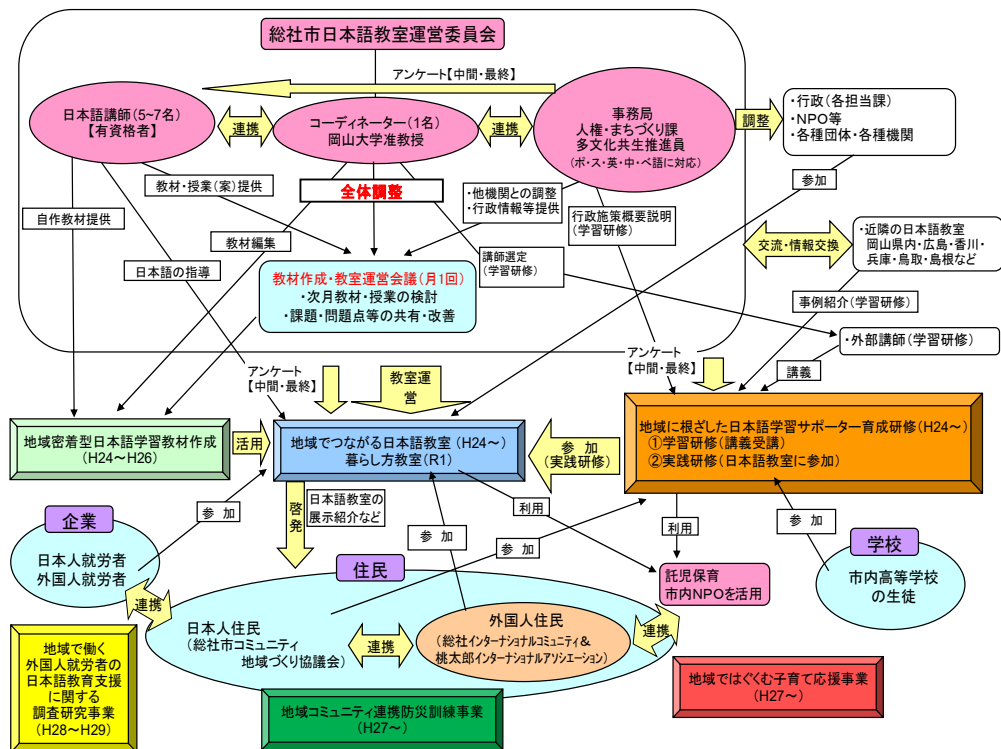
### 6. 地域で働く外国人就労者の日本語教育支援に関する調査研究事業

「地域」「連携」  
がキーワード!

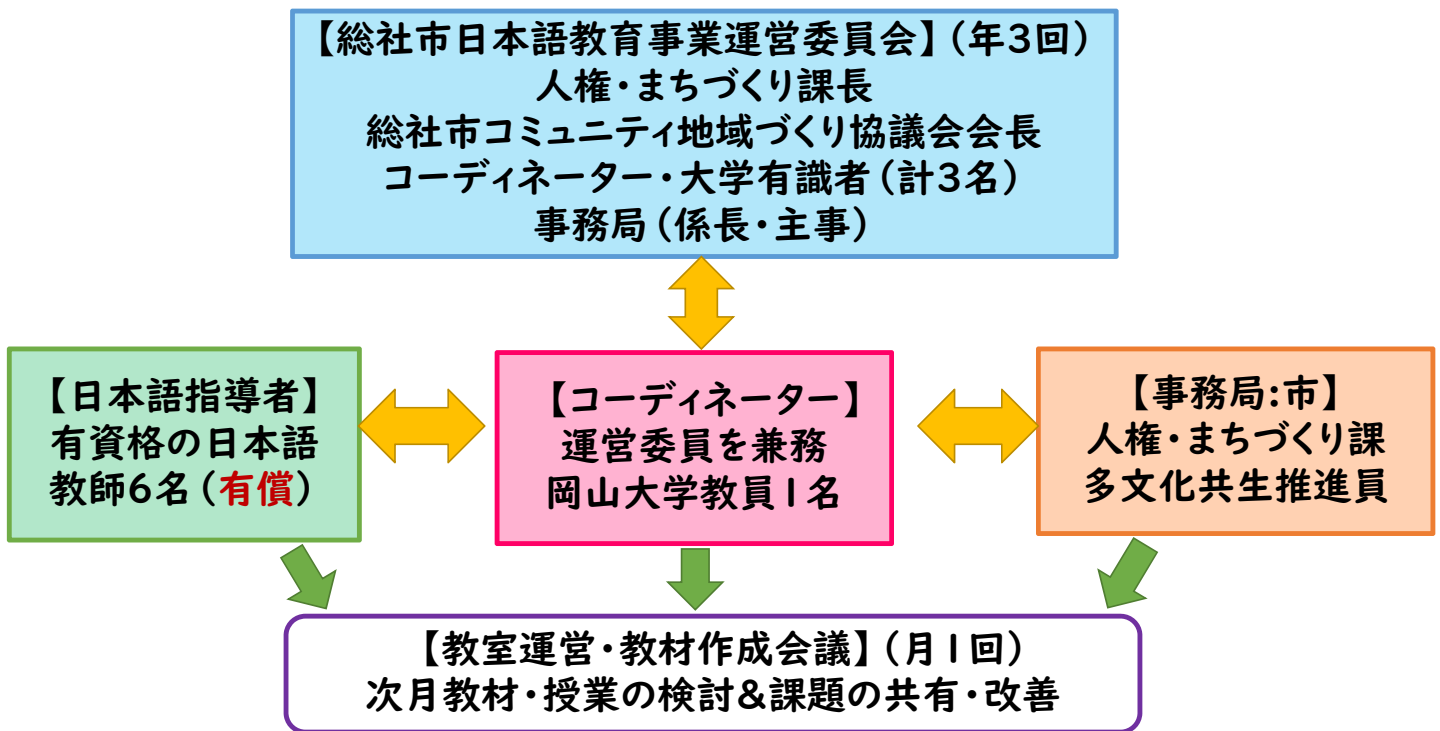
## 総社市日本語教育事業の事業・連携体制

<運営スタッフ>  
行政  
コーディネーター  
日本語教師

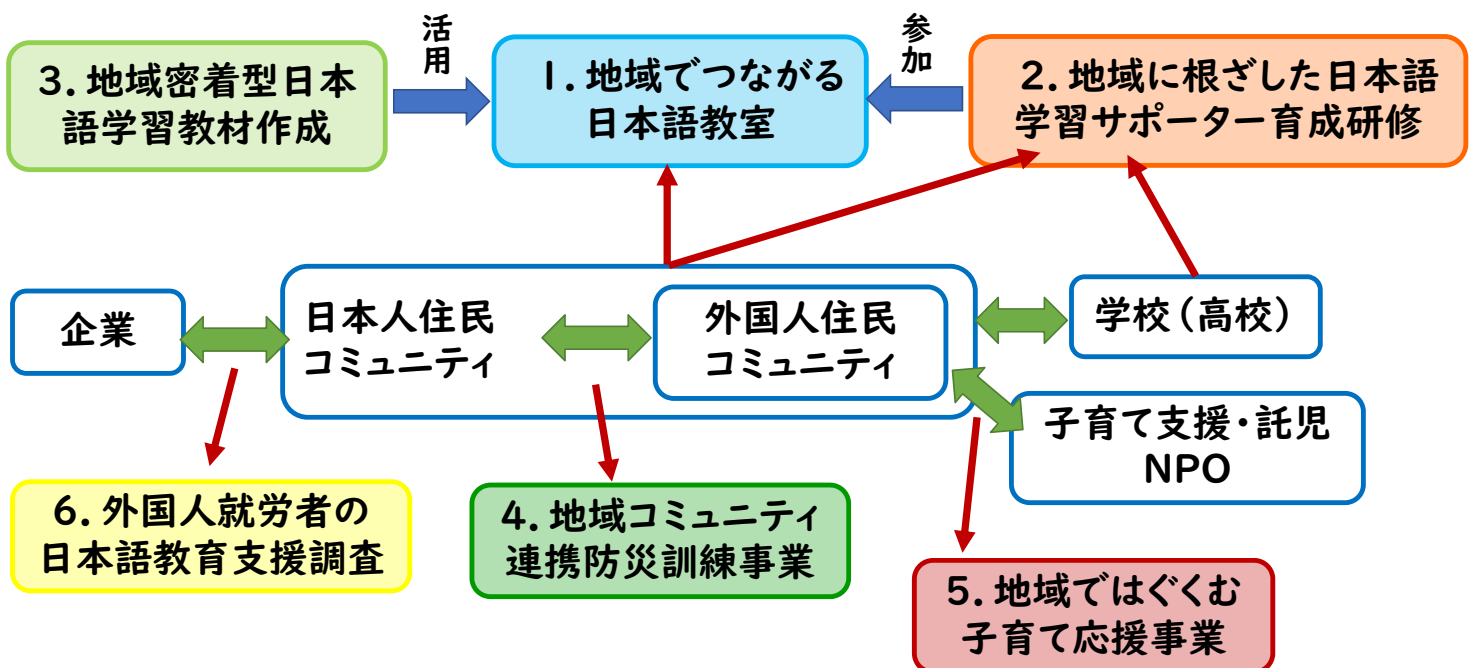
<住民・コミュニティ・企業・学校>



## 総社市日本語教育事業の運営・連携体制〈運営スタッフ〉



## 総社市日本語教育事業の運営・連携体制〈住民・コミュニティ・企業・学校〉



コーディネーターによる  
事業の全体統括・調整



日本語教育事業を通じて**行政・日本語教師・  
地域住民が連携**できる体制の構築

行政が事業主体となること  
で、**継続的・安定的な  
事業運営**が可能となる



社会全体の課題として日本語教育の推進を  
**地域全体で取り組む**ことができ、  
地域の多文化共生推進に直結する

教室立ち上げ当初  
は課題山積・・・



日本語学習を**継続**することが難しい  
日本語学習者間での**日本語のレベル差**が大きい  
日本語の学習**ニーズが多様**で目標設定が難しい  
日本語教師が**生活者向けの日本語教育に慣れていない**  
日本人住民の外国人住民との**接触経験がとても少ない**  
行政職員も外国人住民への**対応に慣れていない**

### 3. 総社に暮らす地域住民の実態把握を踏まえた地域日本語教育の設計

- 総社市における南米系定住外国人の言語生活実態調査（2012）  
➡ **ブラジル人を中心とする外国人住民**を対象
- 総社市における多文化共生推進施策に関する意識調査（2016）  
➡ **日本人住民**を対象
- 総社市における外国人就業者の日本語教育支援に関する調査（2018）  
➡ **外国人を雇用する企業と企業で働くベトナム人技能実習生**を対象

実態把握に必要な調査の実施・  
情報公開による課題やビジョンの共有

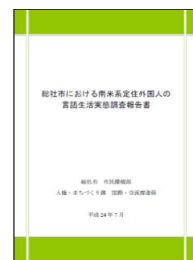


**地域住民への周知と理解促進  
中・長期的展望を持った運営**



### 3-1 南米系定住外国人の言語生活実態調査(2012)

- 16歳以上の南米系外国人全員(278人・ほぼブラジル)
- 67票(回収率24.1%・ブラジルのみ)



日本語使用場面の限定性(ほぼ職場に限定)  
 日常会話・簡単な単語レベルの「聞く・話す」能力  
 ひらがな・カタカナ程度の「読む・書く」能力

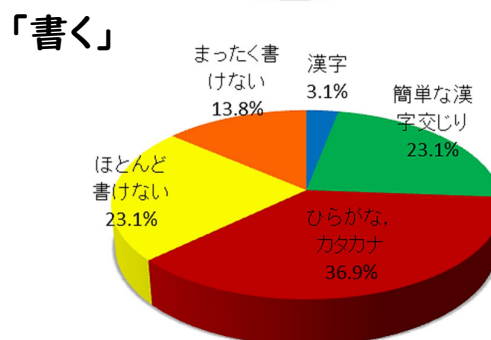
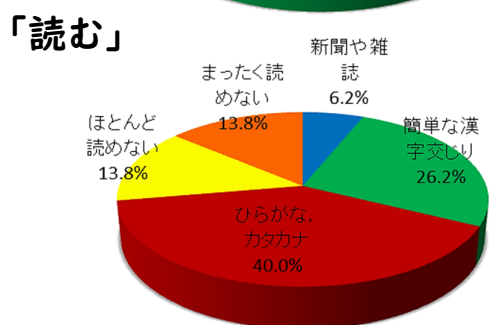
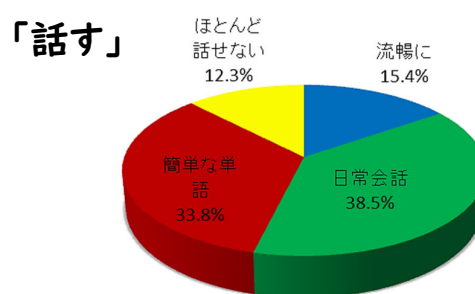
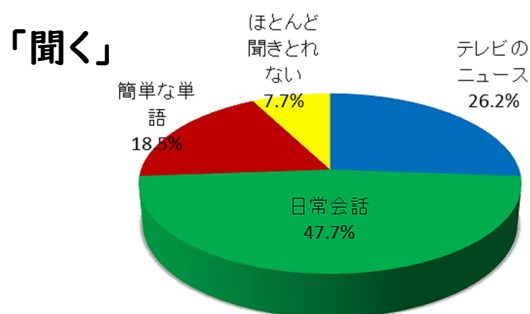
日本人住民との交流・近所付き合いの少なさ  
 地域住民同士の関係性の希薄さ

日本語能力が十分でないことだけではなく、  
 仕事・医療・子育て・老後の生活・緊急時対応  
 など多岐にわたる悩み

日本人住民の理解と  
 サポートの必要性

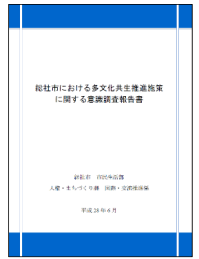
外国人住民の目線に立っ  
 た日本語教育の必要性

### 日本語能力(4技能)について自己評価(n=65)



ほとんど・まったく文字の読めない・書けない人が3割~4割

### 3-2 多文化共生推進施策に関する意識調査(2016)



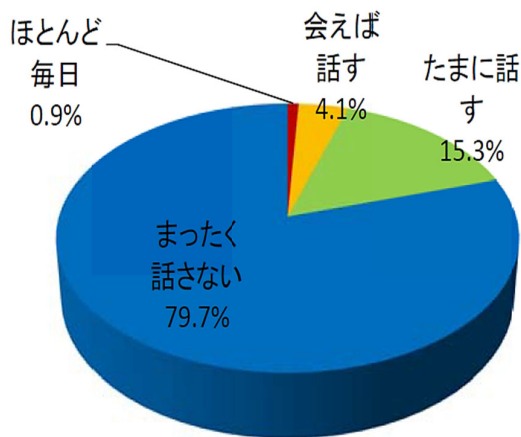
- 16歳以上の日本人住民(500人無作為抽出)
- 231票(回収率46.2%)

外国人住民との接触・交流・近所付き合いの少なさ  
地域住民同士の関係性の希薄さ

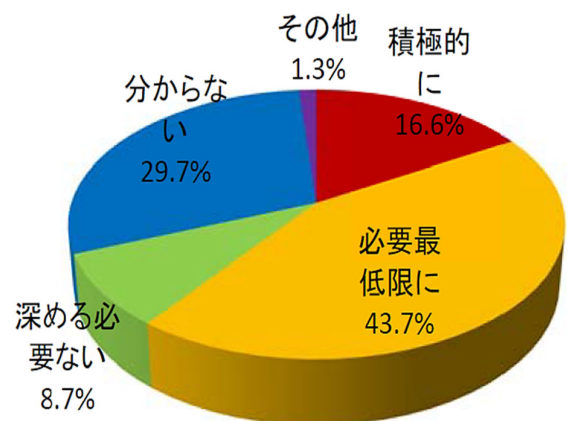
外国人住民に対する関心の低さ  
外国人住民との関わり合いは必要最低限に

市の多文化共生施策に関する情報不足  
外国人に関わる情報や日本語教室の存在が知られていない

(1) 地域内での外国人と話す頻度 (n=222)



(2) 今後、外国人市民との関わり合い (n=229)



外国人住民との交流・近所付き合いの少なさ  
外国人住民に対する関心の低さ



地域住民への理解促進・  
地域連携の必要性

### 3-3 外国人就業者の日本語教育支援に関する調査(2018)

■企業(15社)・企業で就業するベトナム人技能実習生(20人×8社=160人)

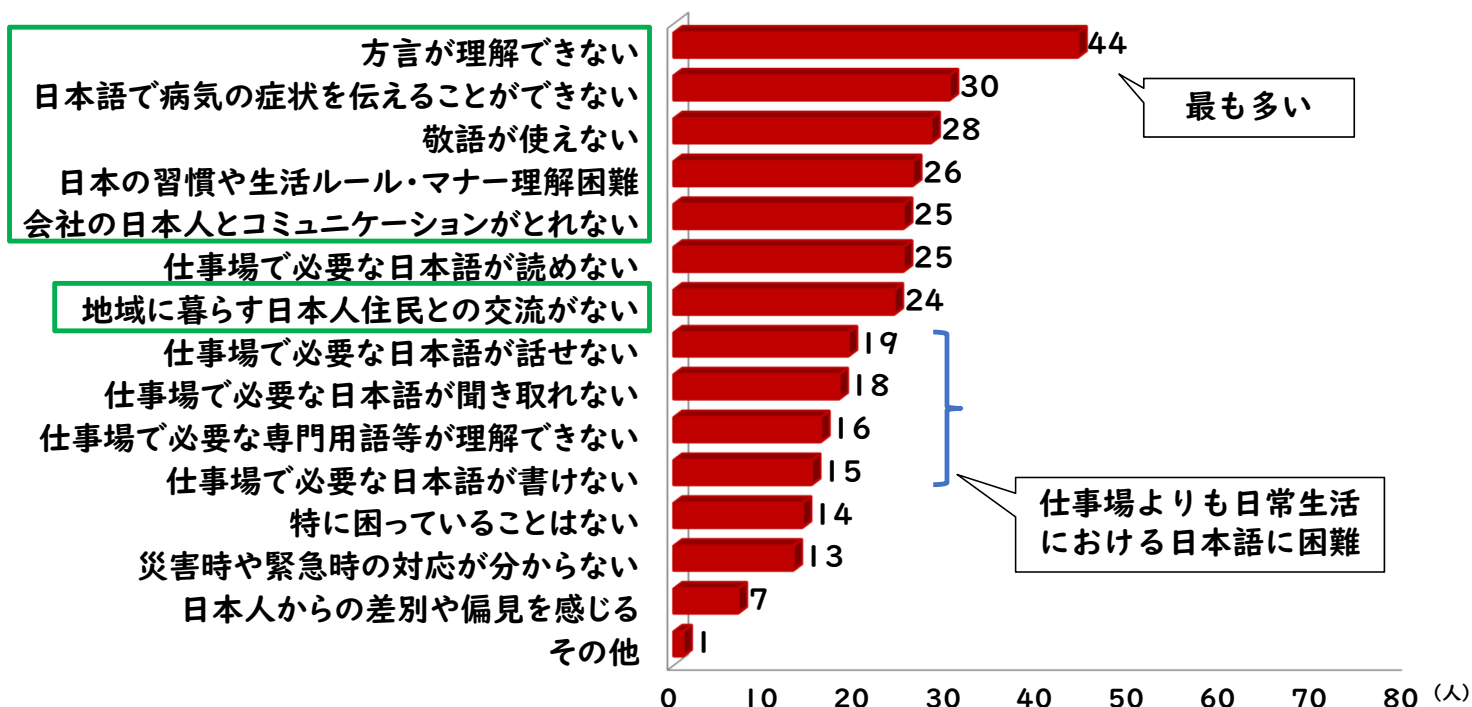
■企業9票(回収率60.0%)・実習生78票(48.8%)



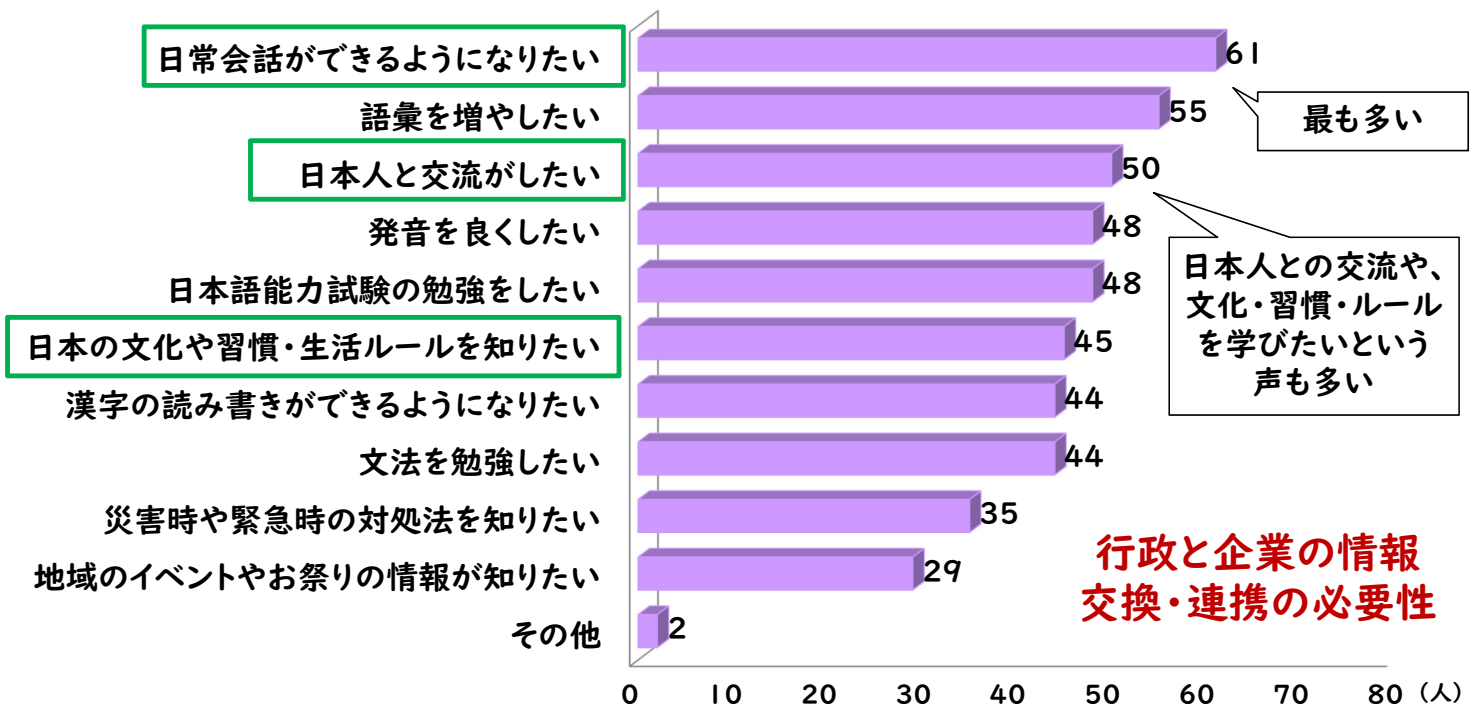
企業:挨拶や基本的な日本語・日本人とコミュニケーションをするための日本語・仕事で使う日本語能力を重視  
日本の習慣や生活ルール・マナーを理解するのが難しい

実習生:方言が理解できない・病気の際に症状が伝えられない・日本の習慣や生活マナーの理解が困難・会社の日本人とコミュニケーションが取れない・仕事に必要な日本語ができない・敬語が使えない・地域住民との交流がない

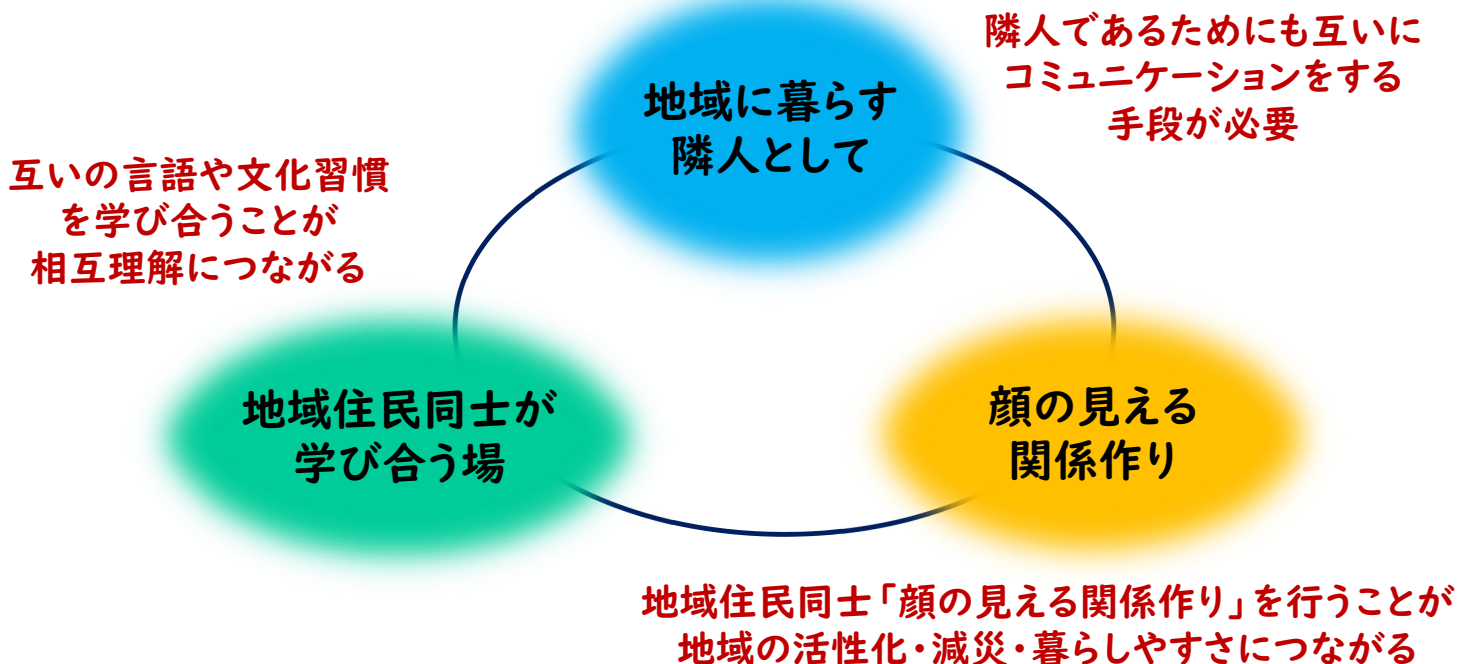
### 日本語や日常生活で困っていること (n=75, 複数回答)



## 日本語教室での日本語学習への期待 (n=75, 複数回答)



## 「総社モデル」の基本理念 すべての人が暮らしやすい社会をつくるために



## 4. 総社市「地域でつながる日本語教室」 —行政と共に創る地域日本語教育を通じた多文化共生のまちづくり—

### 4-1 日本語教室の目的

地域に暮らす外国人住民が、日本人住民との交流を通して、日本での生活を円滑に行うために必要な日本語コミュニケーション能力の向上を図りながら、地域に密着した生活情報を得るとともに、外国人住民が地域社会の一員として積極的に参加できるよう、地域住民同士がつながる場を提供する。

日本語能力を伸ばすことよりも地域住民として必要な「生活情報・行政情報の提供」「住民同士の交流の場」として機能させることに重点を置く

### 4-2 日本語教室のスケジュール

- 開講期間：毎年6月（第2週目）～翌年3月（第1週目）
- 場所：総社市保健センター（市役所に隣接）
- 開講日時：日曜日9:30～11:30（2時間×30回＝60時間）

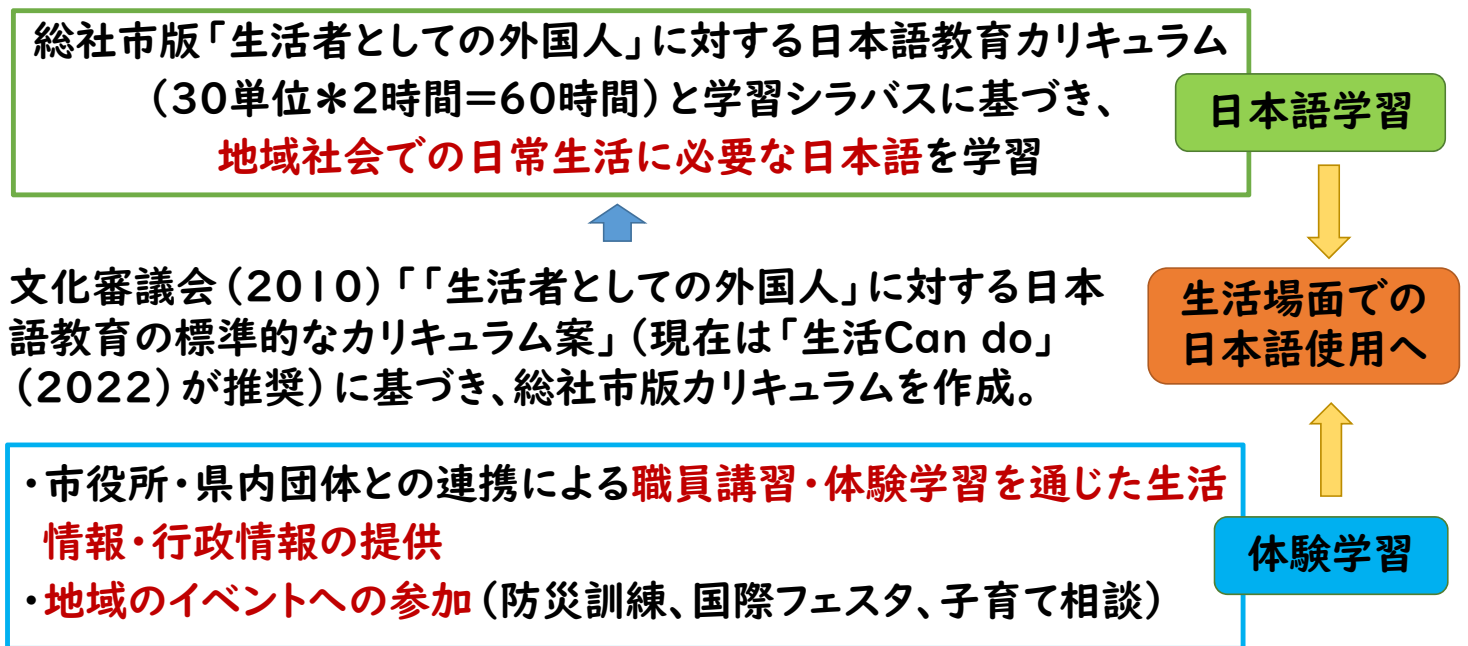
9:20～9:30	事前打ち合わせ（教師・サポーター）
9:30～11:30	2クラスに分かれて前半授業
10:30～10:40	（途中休憩・交流の時間）
10:40～11:30	2クラスで後半授業・クラス合同イベント
11:30～12:00	授業終了・事後ミーティング（教師・サポーター・行政）

日本語教室の評価・改善



- ・毎回の教室後のミーティング
- ・月1回の教室運営・教材作成会議
- ・年2回の学習者アンケート

## 4-3 総社市版カリキュラムに基づいた日本語教室での学習・活動内容



## 「標準的なカリキュラム案」から総社市に合わせた項目を抜粋(一例)

大分類	中分類	小分類	事例1(上位項目)		事例2(下位項目)	
Ⅰ 健康・安全に暮らす	01 健康を保つ	(01) 医療機関で治療を受ける	0101	適切な医療機関を選択する	0101020	症状に合わせて適切な病院・医院を探す
			0102	問診表に記入する	0102010	初診受付で手続きをする
			0103	医者の説明・指示を理解し、 応答する	0103010	医者の診察を受ける
		0103120			病気への対処法・生活上の注意などを質問し答えを理解する	
		(02) 薬を利用する	0201	処方せんを持って薬局へ行く	0201020	医療機関で処方せんをもらい、内容を確認する
			0202	薬局・薬店を利用する	0202050	症状を説明し、薬を求める
			0203	薬の説明を理解し、適切に利用する	0203070	薬剤師等の「効能、用法、注意」の説明を理解する
		(03) 健康に気を付ける	0301	病気を予防する	0301090	流行性の病気についての情報を理解し適切に対処する
		02 安全を守る	(04) 事故に備え、対応する	0403	犯罪に対処する	0403020
	0403040					近くの人に知らせる
	0404			交通事故に対処する	0404010	救急車(119番)に通報する
					0404090	適当な人に助けを求め、けが人がいる場合は応急措置を取る

## 総社市版日本語教育カリキュラム(30単位)と学習シラバス

標準的なカリキュラム案	総社市版カリキュラム(30単位)・学習シラバス			
【大分類】項目	単位数	領域区分	学習シラバスの内容(例)	
I 健康・安全に暮らす	9	4	医療	病院を探す、病院の診察を受ける、薬局を利用する
		1	救急警察	110番・119番に電話する、助けを求める
		4	防災	地震・台風について理解する、防災訓練に参加する
II 住居を確保する・維持する	1	1	引っ越し	引っ越しの挨拶をする
III 消費活動を行う	4	4	買い物	ちらしやメニューを理解する、サイズや色を尋ねる
IV 目的地に移動する	3	3	交通	交通マナーやルールを知る、道を尋ねる・教える
VI 働く	1	1	仕事	職場での挨拶・言葉づかいを理解する
VII 人とかかわる	4	4	挨拶	自己紹介をする、年賀状を書く、慶弔のマナーを知る
VIII 社会の一員となる	4	4	社会生活	ゴミの分別・出し方を知る、公共マナーを理解する
IX 自身を豊かにする	4	4	地域を知る	総社の祭り・国際フェスタに参加する、総社の町を歩く

➡ 分かりやすく領域区分でカテゴリー分け

## 総社市日本語教室学習教材『地域でつながる日本語教室』2012～2014 (文化庁地域日本語教育実践プログラム(A)で作成)

【本編】学習シラバスに基づき16～18章から構成

- 文型積み上げ式でなく**1回完結式**の授業形態
- 各章ごとの語彙・表現、会話スクリプト  
(漢字にはルビ、必要に応じてローマ字併記)
- 各章のテーマの理解を促進する絵教材・資料

【付録編】

- ひらがな・カタカナ一覧表
- 漢字練習シート
- 総社市日本語教室でのイベント



## 具体的な実践例～防災編～

### 1. 【本編】

第9章「災害が起こったら」を利用し、地震・台風などの災害や災害時の避難に関する語彙・表現を学ぶ。



会話スクリプトを使って、避難する際に必要な会話を練習。

「避難所はどこですか？」

さいがい き 9. 災害が起こったら

きょうは…ですわ

A: きょうは \_\_\_\_\_ ですね。  
kyoowa \_\_\_\_\_ desune

B: そうですね。 \_\_\_\_\_ ですね。  
soodesune \_\_\_\_\_ desune

天気のことば

1. 晴れ hare
2. 曇り kumori
3. 雨 ame
4. 天晴 ocame
4. 雷 kaminari
5. 雪 yuki
6. 大雪 ooyuki

災害のことば

1. 地震 ishini
2. 台風 taifuu
3. 洪水 koozui

- 49 -

## 2. 総社市HPのハザードマップ（多言語）で浸水区域を知る。



Language | 日本語 English Português 中文 Tiếng Việt

Hiểu biết về thiên tai, nhằm giảm nhẹ thiệt hại do thiên tai thảm họa gây ra  
Bản đồ dự báo thiên tai lũ lụt, sụt lún đất Thành phố Soja

**総社市**  
Soja City  
Ban quản lý khủng hoảng  
thành phố Soja.

Hiện thị bản đồ dự báo thiên tai

Cách nhìn, cách sử dụng

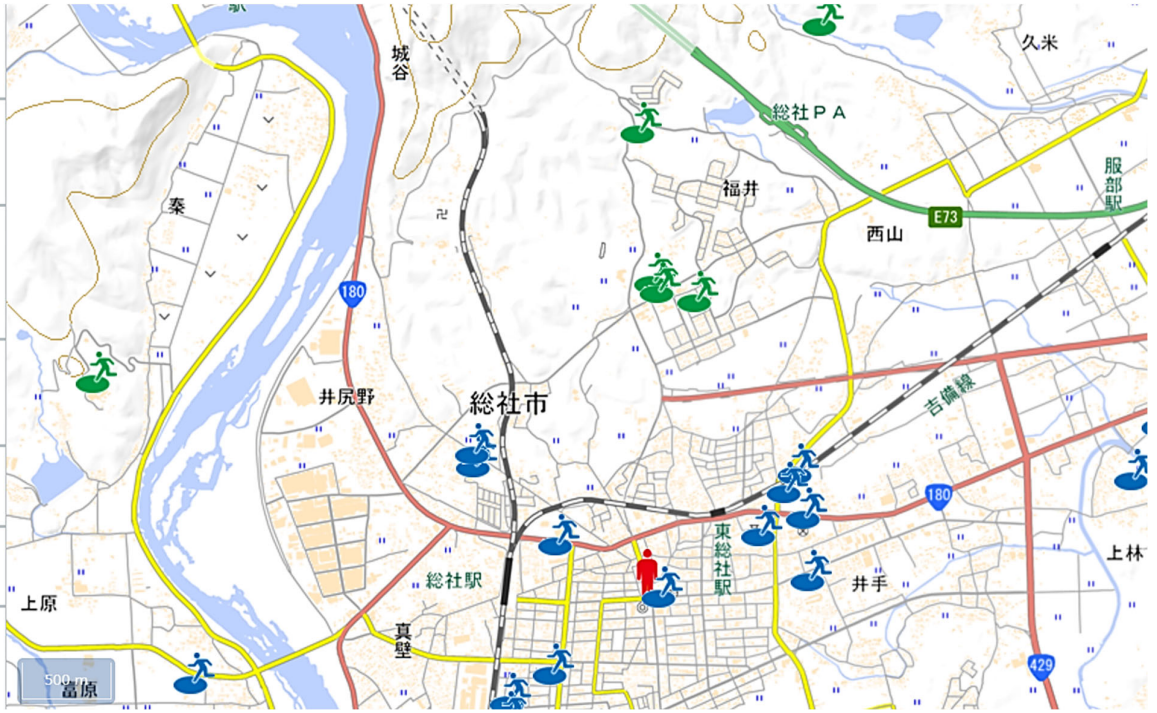
Menu lựa chọn	
<input type="checkbox"/>	Khu vực ngập lụt dưới 0.5m
<input type="checkbox"/>	Khu vực ngập lụt từ 0.5 ~1.0 m
<input type="checkbox"/>	Khu vực ngập lụt từ 1.0 ~2.0 m
<input checked="" type="checkbox"/>	Khu vực ngập lụt từ 2.0 ~5.0 m
<input type="checkbox"/>	Khu vực ngập lụt trên 5.0m
<input type="checkbox"/>	Khu vực cảnh báo đặc biệt về thiên tai sạt lở



### 3. 総社市HPのハザードマップ（多言語）で避難所を確認する。



- biệt về thiên tai sạt lở đất (Mặt dốc nghiêng thẳng đứng)
- Khu vực cảnh báo về thiên tai sạt lở đất (Sạt lở núi)
- Khu vực cảnh báo về thiên tai sạt lở đất (Mặt dốc nghiêng thẳng đứng)
- Khu vực cảnh báo về thiên tai sạt lở đất (Đất trời, sạt lở đất)
- Địa điểm sơ tán lánh nạn (sử dụng được)
- Địa điểm sơ tán lánh nạn (có điều kiện)
- Địa điểm sơ tán lánh nạn (không sử dụng được khi lũ lụt)



### 4. 「多言語防災カード」の記入方法を学ぶ。 (ポ・ス・英・中・韓・やさしい日本語)



ぼうさい かんじ  
防災の漢字

洪	砂	避	報
こうずい 洪水	どしゃ 土砂	ひなん 避難	てんきよほう 天気予報

### 5. 【付録編】の漢字練習シートを利用して 「防災の漢字」を学ぶ。

簡単な漢字から積み上げるのではなく、  
「生活に必要な漢字」を選定

## 6. 市職員による防災講習

➡ 後日：市の防災訓練・消火訓練への参加



防災に関する日本語学習・知識  
+ 体験学習



- ・より理解が深まる
- ・実践的な学びにつながる

### 4-4 職員講習・体験学習を通じた生活情報・行政情報の提供

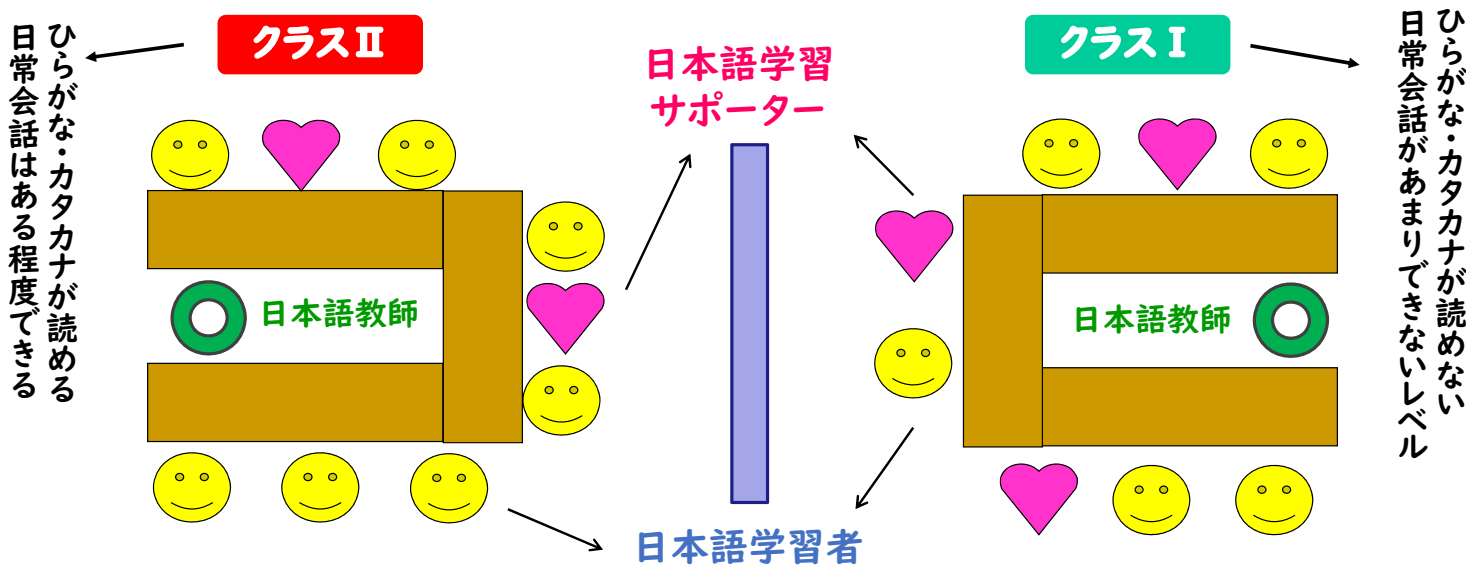
- ゼロ初級レベルなので言葉だけでは理解困難
- 行政主体の日本語教室の利点を生かし、市職員も外国人対応を学ぶ場
- 「やさしい日本語」の職員研修を受講・実践につなげる

- ・ゴミの分別講習（環境課）
- ・交通安全講習（交通政策課）
- ・防災講習（危機管理室）
- ・防災訓練・救命救急訓練（消防署）
- ・病院見学・受診体験（市内個人病院） など

日本語教室で行う場合は  
終了前30分程度

消防署や病院に出向いて、  
日本語教室の時間内  
2時間で実施

## 4-5 日本語教育の「質の保証」と「多文化共生推進」の仕組み作り



総社市役所職員：毎回出席管理・記録担当

コーディネーター：月1回程度・研修講師・外部対応

教室に直接入り込まず、客観的に全体を観察

### ①日本語教師（有償）

（6名：毎回2名ずつローテーション）

有資格日本語教師，教授歴・経験豊富

有資格者の日本語教師が指導者となることで日本語教育の「質」を保証

### ④日本語学習サポーター（無償）

地域居住のボランティア日本人住民

サポーター育成研修の一環として教室に参加

②日本語学習者  
地域に居住する  
外国人住民（成人）  
ゼロ初級レベル  
母語は限定しない

日本語学習を最も必要とする人

③総社市役所職員  
日本語教育事業の事務局（国際・交流推進係）

毎回、担当職員が参加する



### ⑤コーディネーター

直接教室に参加せず、背後から客観的に俯瞰し全体統括・調整

## 日本語学習サポーターの具体的な役割

- 地域に暮らす隣人として日本語教室で**日本語学習支援**をする（専門知識は不要）
- 住民同士の交流を促進し「**地域住民同士がつながる場**」として機能させる



授業内容の理解促進に  
ちょっとした手助け



モデル発話や  
会話練習の相手



ペアワークの相手

地域の生活情報、生きた日本語との  
接触、「顔の見える関係づくり」の場



- ・外国人支援を実践的に学ぶ場
- ・多文化共生意識の啓発・醸成の場
- ・誰もが暮らしやすい共生社会実現へ

## 4-6 日本語学習の継続につながる日本語教室の様々な工夫

### テーマごとの「1回完結」式による授業形態

- 毎回受講者が参加するのは難しいため、**積み上げ式は成立しない**
- いつ来ても参加できる安心感が**学習意欲の継続**につながる

### 実際の日常生活における日本語使用場面に役立つ日本語学習

- ロールプレイによる**実践的な会話練習**により「**使える日本語**」を学ぶ
- **レリア**の活用（例：市販の薬の実物や、病院でもらう薬袋など）

### 実践・体験を通じた日本語学習

- **体験型**文字学習（書道体験・七夕の短冊書き・年賀状書き）
- **体験型**文化学習（盆踊り・浴衣・祭り・まちあるき・お正月遊び・節分豆まき）
- **日本語使用を促進させる**ゲーム（ことばゲーム・しりとり・ことばすごろく）

## 5. 総社市における持続可能な地域日本語教育のあり方

### 5-1 「予算確保」に向けた住民への周知と理解促進

- 日本語教育事業運営に関わる実態把握に必要な調査実施・**情報公開**（総社市HP）→3.
- 日本語教室の展示（市役所庁内・公民館・図書館・国際フェスタ会場・地銀ロビー・スーパーの展示スペースなど）による**情報周知**
- SNSを利用した日本語教室の**情報発信**
- **外部へ向けた周知活動**・外部からの**視察の受け入れ**など
- 「ふるさと納税」を活用した広報・周知

地域が抱える課題の把握やビジョンの共有を地域全体で行う

### 5-2 地域連携体制・ネットワーク構築と**人材育成**・**人材発掘**

- 外国人防災リーダーが日本語教室の防災講習や防災訓練に参加
- 地域コミュニティ・NPOとの連携による防災訓練事業や子育て支援事業を通じて、**日本語教室に参加していない地域住民に対して交流の場を提供**
- 「やさしい日本語」研修の実施による人材の育成
  - ・市職員向け
    - 担当部署以外の職員も研修受講し、より多くの職員に対し理解促進
  - ・日本語学習サポーター向け
    - **外国人コミュニティのメンバーに実践練習のゲスト参加してもらうことで、活躍の場を提供**
- 地元高校との連携 →人口減少・高齢化対策として**次世代の人材育成**

次世代を担う若い世代の育成・発掘  
地域社会で外国人が活躍できる機会・場の創出

### 5-3 コーディネーターによる**全体統括・調整**と**役割分担**

#### ■ コーディネーターの主な業務

- ・ 年間スケジュール・日本語教育プログラムの作成
- ・ 会議の設定 → 運営委員会 (年3回)  
→ 教室運営・教材作成会議 (月1回)
- ・ 会議資料・報告書作成
- ・ 日本語教室の観察・問題解決
- ・ 人材育成研修の実施 (年3回)  
→ オリエンテーション・「やさしい日本語」研修 (2回)
- ・ 高校との連携に関する諸業務 (事前指導等)
- ・ 外部からの視察や外部からの講演依頼対応

市職員  
日本語教師との調整

市職員を通じ  
市民との調整

市職員を通じ外部との調整

役割分担による負担軽減・作業の明確化・効率化  
円滑な事業運営による持続可能な仕組み作り

## 6. おわりに—「総社モデル」の新たな展開へ

#### ■ 総社市の**夜間中学との連携**

2022年 そうじゃ「夜間中・学びの教室」が開講  
生涯学習課が担当。退職教員が指導者 (有償)

- ・ 毎週木曜日の夕方に開催
  - ・ 小・中学校程度の国語・算数 (数学)
  - ・ 16歳以上、学ぶ意欲のある人。
- 現在、**半数以上が外国人住民**。



総社市日本語教室は  
**日曜日午前開催**、受講者は  
**基礎的な日本語学習**が目的

#### ■ 他の自治体における「**総社モデル**」の普及

2023年～岡山市の「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」における新設の日本語教室に「総社モデル」をアレンジ

- ・ 岡山市の空白地域 (南区・東区) に行政が日本語教室を立ち上げ。
- ・ 有資格の日本語教師 (有償) による日本語指導+サポーターの学習支援